

「H氏・M氏」 (201-1)

「H氏」

昨年春、僕の40年来の友人H氏が脳梗塞で突然倒れた。僕と同年齢だったし、同じ建築仲間・遊び仲間であった。本人に言わせればそれ以前、何かしらの「前兆」があつたらしいが、ほつといたのが悪かつた様だ。ここ数年来、突然の「脳梗塞」でも2~3時間以内の対処であれば後遺症も残らない見事な救急処置医療の技術が確立されている。僅かな前兆に気付き、事前に対処すれば猶更良いという事だ。我々の年代の者は心して準備しておくに越したことはない。

彼は自分が運転する車で突然発症に気付き、そのまま自分の車で病院に駆け付けたが、なにぶんにも時間が経ち過ぎており、簡単な救急処置では済まず、車を駐車場に置いたまま、即緊急入院・1か月間の治療・リハビリ訓練を経て、やっと退院出来たという事だが、恐ろしい話だ。若干の後遺症はあるようだが、断酒を言い渡されただけで、何とか以前どおりの生活を続けているが、不幸中の「幸い」とも言える。

十数年前、約2億円を投じて市内屈指の海岸別荘地（770坪）に82坪の頑強RC造建屋を建設してワインセラー・サウナ付の豪勢なりゾート生活に浸り、時には大勢の来客を招いての大ガーデンパーティー生活を送っていた。その彼がこの入院生活を機に、人が変わったように弱気になり、遂にはこの豪壯邸を手放す決意をし、市内の不動産屋に依

頼して動いたものの、数人からの話はあったものの、半分は冷やかし、投資金額の半額を提示しても値切られたり、断られたり、結局は本気なお客がとうとう現れなかつた・・・といふことで、僕にも普段見せた事もない弱気を見せる日々が続いた。僕は「市内・県内を相手にする事はもう止め、首都圏大震災・沈没が叫ばれている今を好機と捉え、ネットによる販売で首都圏の脱出希望者・大金持ちを捕まえよう・・・！」という事になり、この大プロジェクトがスタートする事となつた。

「M氏」

名古屋大学で原子力工学を学び、いざ就職の折、地元の中国電力を受験したが失敗、次に選んだ道が就職に強いと考え、大阪大学の土木工学に学部入学・・・そして就職したのが原子力発電の雄「三菱重工」であった。原子力と土木と両方の専門家という事もあってか社内・学会等では数々の研究論文発表・特許取得の実績がある。

まるで紙芝居の筋書きの様な人生である。お父さんが宇部興産出身という事もあり、又広い土地持ちもあり、街中に6階建て12戸のマンションの家主である。何を考えたか三菱重工を早期退社し、その「マンションの管理」と細々と「パソコン工房・教室」を運営している。僕の家の実家の近くであり、彼のお兄さんと僕の家内が小・中学の同窓という事でもあった。そう言つて、パソコン初心者の僕は時々パソコン

ンの診断や修理、分からぬ事を教えてもらつたりしていた。ある日彼が僕の家で僕のパソコンの診断をしているその時、僕たちが目にしたのはＴＶ画面の福島第一原発3号機が水素爆発を起こした瞬間であった、3月14日の昼前の事であった。すぐさま彼は「こりやダメだ・大変だ・・・」と叫んでや、パソコンから離れ、近々上京予定の奥さんに電話をし「東京行きをすぐ止める様!」叫んでいた。原子力事故の怖さを知っている者ならではの対応である、そう言えば、米国の原子力関係者達はこの原発事故への対処として80km以内への立ち入り禁止、そして日本脱出の勧告も出していた。安全よりも「混乱」を回避した日本の対応とは大違いである。尤も政府内には内々に、首都からの1200万人の脱出計画の噂もあったとの事だ。

この原発事故を契機に国も、様々な代替えエネルギーの開発計画に大きな補助金を準備し始めている（経産省、文科省、環境省・・・）。これに目を付けたのがM氏で、彼が今まで暖めてきた理論・特許（深海圧力利用、深海温度差利用）のプロジェクトの申請に手を付けたいとの話であり、ついては深海の圧力函体に不可欠の超高強コンクリート（200N）が欠かせないとの事で、宇部興産の協力が欲しいとの話を受けた